



Contents

- 新図書館長のご挨拶 ————— P 1
- 連載「図書館と私」 ————— P 2
- お薦め図書を紹介 ————— P 3
- 館内案内 ————— P 4、5
- 新図書委員／退職職員・新職員のご挨拶
寄贈図書の報告 ————— P 6



上越と図書館はすばらしい



図書館長
情報科学 教授 **橋本 明浩**

上越の春は、山歩きで多くの草花を楽しめます。白の水芭蕉、赤紫のカタクリの群生、珍しい大岩団扇（オオイワウチワ）、越の小貝母（コシノコバイモ）等枚挙に暇がないほどです。水辺に目を向ければ数種のサンショウウオの卵も見ることができます。冬の雪の多さには閉口しますが、春の上越の美しさは極上で、珍しい動植物（多くが絶滅危惧種）が、市の中心から10数分の場所で見ることができるのは、日本では上越だけと思っています。

さて、このような動植物を見つける時には、インターネットでの検索は強力です。他方、看護学専門図書館の本学図書館は無力的ように思えます。しかし、インターネットの検索には無いものが、本学の図書館には2つあるのです。その2つを明かしましょう。

1つ目は、司書資格を有する2人の司書と図書館ネットワークです。調べる対象についての直接の専門的な知識はなくとも、メタ情報（つまりどこにその情報があるか？またはどこを探せば正しい情報があるか）のプロフェッショナルが図書館司書なのです。例えば、本学に無い学術専門雑誌に掲載されている文献も、「ここの図書館からでは、もっとも早く複写を送ってもらえる」等の知識もその1つです。さらに司書同士の人間のつながりも大切なネットワークです。この情報に関してはこの司書さんに聞くというような人間のネットワークがあるのです。

2つ目は、正しく選ばれた本です。インターネットの情報は迅速ですが、全部が正しいわけではありません。少なくとも私の専門の統計学に関するインターネット上の記載で正しい記載を見たのは慶應大学の渡辺美智子教授の統計記述だけのような気がします。ほとんどの記載はヒストグラムの意味も知らず、統計的仮説検定の論理構造を間違え、症例対照研究の意味と方法も知らないデタラメな記載でした。多くの間違いはインターネットの事典からの引き写しで、その事典が間違っていたからと想像しています。無論、私はインターネット上の記載を4つほど修正しましたが、うち今でも残っているのはたった1つだけです。

最後にもう1つ図書館の良いところは、静かで快適な場所という点です。暑い夏、自宅ではなく、地球環境にやさしい図書館で過ごしましょう。専門書以外の心を磨く本もあります。心が疲れた時に専門書以外の本を読むのも良いかもしれません。



コバイモ



博士後期課程

みなさんこんにちは。私は現在、博士後期課程に通っています。本学の博士後期課程は今年度から始まったということもあって、先生方も非常に熱心にご指導くださっています。授業は4月から始まっていますが、やはり博士というところでしょうか、英文献に触れる機会がとても多い！読み慣れていないのでかなり苦労しています。しかし、先生方の熱意に支えられて頑張っているところです。

さて、私の図書館活用法ですが、今お話ししたように博士後期課程では海外の文献によく触れています。この英文献を検索したり、取り寄せたりするのに私は図書館をよく利用しています。本大学の検索システムには本当によく助けられています。EBSCOやPubMedなど図書館のホームページから入って検索ワードをかけるとすぐ出てきます。ほしい文献があったら、図書館に置いてあるか確認して、置いてあれば図書館内でコピーさせてもらっています。もし図書館に置いてなければ「文献複写依頼」をPC上でクリックしてすぐに申請しています。たまに、「複写依頼したけれど、ネット上に載ってた」なんてこともあり、図書館のスタッフの方々にはご迷惑をおかけしています。それでもみなさん親切・丁寧に教えてくださり、ここの図書館はいつも利用しやすい雰囲気です。もちろん、授業のレポート書くのにも参考図書をしよっちゅう借りていますし、ない場合は相互貸借で取り寄せてもらっています（多少お金はかかりますが・・・）。みなさんもぜひ図書館に足を運んで、検索システムに触れてみて下さい！図書館の上手な活用がみなさんの知識を増やし、活躍の幅をどんどん広げる足掛かりになるのではないのでしょうか！



4年生

私は、1, 2年生の時はあまり図書館を利用する機会が多くありませんでした。しかし、3年生になり、演習や実習が始まってから図書館を利用する機会が多くなりました。領域別に分かれて多くの種類の本があるため、病態を理解したり、患者さんに対してどのような看護展開をするべきか参考にするために多くの本を読み、理解を深めていました。また、試験前には、図書館で勉強をすることが多いです。図書館は静かなので、集中して勉強をしやすい環境が整っています。また、勉強をしていてわからないことがあった際には、図書館で勉強しているとすぐに調べることができるため、理解を深めることができ、とても助かっています。4年生になってからは、看護研究を行う際に文献が必要になるため、文献を検索する際にも図書館を活用しました。本学の図書館には、看護系の文献が多く所蔵されているため、自分の必要としている文献を入手することができます。また、文献が本学に所蔵されていない場合でも、文献を取り寄せることができます。

わからないことがあっても司書の方に手助けをしていただきながら、文献を探そうになりました。このように魅力がたくさんある図書館をぜひ、みなさんも利用してみてください。



4年生

私は、現在大学4年生です。4年生になって、図書館を活用する機会が増えたように感じています。現在は、自分で看護研究を行う際に必要な先行研究の論文を読むために図書館を使用させていただいています。図書館内には多くの看護系の学会誌があり、自分が読みたいと思っていた論文を集めることができました。図書館内にはパソコンやコピー機もあるため、読みたい論文をパソコンで検索して、学会誌を見つけてコピーするまでを図書館だけで完結させることができるところが個人的にとっても便利であると思っています。

また、図書館内で試験の勉強などを行うこともあります。図書館内は静かで、集中しやすい環境になっていると思います。国家試験対策本なども置かれているため本を所持していないときはここから借りて、どのような問題が載っているのかの確認などをしていました。図書館の利用でわからないことがあった場合は司書さん方が丁寧に対応して

くださいますので安心して利用をすることができます。

3年生の実習中などは、図書館で受け持ち患者さんの疾患についてや看護の方法などの本を借りてたくさん読んでいました。看護大学の図書館であるため看護関係の本が多くあり、それを読むことでさらに学びを深めることができましたと思っています。

今後、研究や国家試験の勉強が忙しくなるにつれて図書館を利用することが増えてくると思います。これからたくさん図書館を活用していきたいです。

お薦め図書を紹介

本学の図書をご紹介します

「人間対人間の看護」

「人間対人間の看護」Interpersonal Aspects of Nursing, ジョイス・トラベルビー(著), 長谷川 浩(翻訳), 藤枝 知子(翻訳), 医学書院, 1974 について書評というより、目を止めてほしい図書として紹介させていただきます。

作者はジョイス・トラベルビー (Joyce Travelbee 1926-1973) という看護理論家です。おそらく看護学生や看護教育を生業(なりわい)としている方なら誰もが一度は耳にしている、看護教育で対人関係看護論を語る上で欠かせない人物です。いかにも専門書では?と門外漢と思っている方が毛嫌いされることはご無用と思えます。人間関係が希薄化している今の時代に、ジャンルを超えて読める本として選びました。

トラベルビーは、アメリカの看護学者で、ルイジアナ州立大学、ニューヨーク大学などで教鞭をとり、フロリダで博士課程在籍中に死去しています。その早すぎる死は看護学界にとって大きな損失と言われています。

彼女は、主に精神科看護の教育に力を入れ、当時の特にアメリカの看護理論家たちの影響を受けながらも、患者-看護師に生じる関係性に着目した独自の看護論を展開しました。

「人間対人間の看護」を(今さら)お薦めしたい理由が2つあります。

その1つは、トラベルビーは、病気、苦難、希望といった概念を深く掘り下げて探究し、理論のための理論としてではなく、臨床現場の現実に即した看護論を展開していることです。ですから私は今日でも彼女の理論を用いて、多くの臨床家に実際の看護場面に当てはめた事例展開と一緒に演習したり、授業時に学生に身近な臨床場面での患者-看護師関係を説いたりすることができます。「人間対人間の看護」では、対人関係を構築していくステップで、「同感」という位相を表現し、相手とのコミュニケーションスキルとして広く認識されている「共感」に留まらず、同情を含めた感情が伴うことを看護師に認めており、そのプロセスを経て互いの関係が構築した結果、ラポールという信頼関係に至るといふ、いかにも彼女の人間性を表した理論を展開しております。

お薦めしたい2つめの理由は、ヴィクトール・フランクル、R・メイ、カール・ヤスパースに強く影響を受けた実存哲学的な患者-看護師関係論を説き、患者と看護

「夜と霧」

副学長
精神看護学 教授 長谷川 雅美

師を「人」対「人」として表現している点です。特に精神科医ヴィクトール・フランクルの影響を受けている点が私の心を揺さぶりました。邦訳「夜と霧」の作者でもあるフランクルは、あのアウシュヴィッツや他の収容所で体験した、直近に迫る「死」と微かに与えられた「生」に対する冷静な状況判断、それと相反する「人間性」がこの極限においても失われぬ強さをこの本の随所で示しています。私は彼のその優れた描写と表現力に若い頃から惹かれていました。

トラベルビーは当時フランクルとお互いの考えを静かに、しかし熱く語り合ったのでは、そしてそこから自らの対人関係看護論を構築していったのでは・・・と勝手に推測しています。

スマートフォン等による短いメッセージとスタンプだけでも会話が成立し、直接面談によるコミュニケーションが省略されつつある今を私たちは生きています。相手の表現やその時その場の状況を察し、熟慮した対人関係をもつことが人生に意味を成し、大切であることを見直す機会として、ぜひ、フランクルの「夜と霧」と共に、本書を皆様にお薦めし、今一度読み返して頂きたいと願っています。



「人間対人間の看護」 書誌情報

請求記号：N150-Tr2
配架場所：棚1右側(1階)



「夜と霧」 書誌情報

請求記号：946-F44
配架場所：移動式書架L(1階)



「夜と霧」 新版 書誌情報

請求記号：946-F44
配架場所：棚26(2階)

毎年4月に新入生歓迎イベントが開催されます。



1 ブラウジングコーナー



2 1階閲覧席

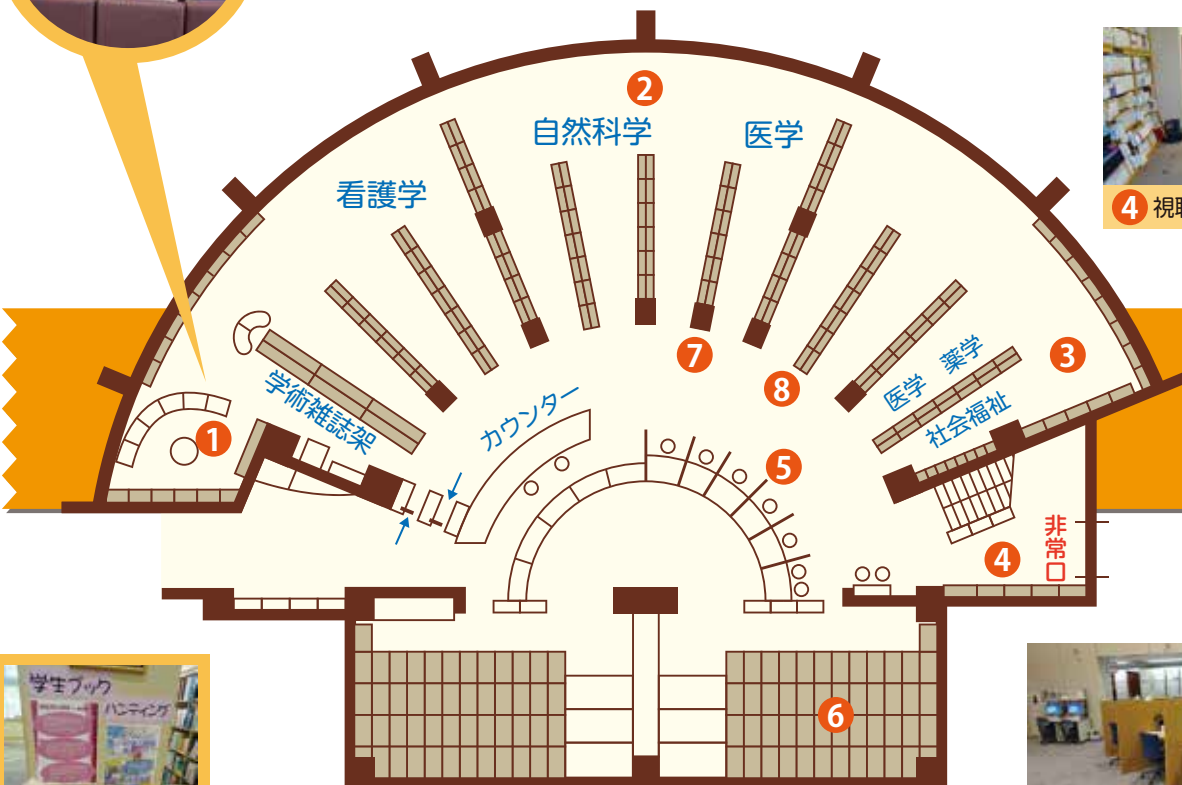


テーブル下の四隅にコンセントがあります。パソコン等も利用できます。



1階

1階には保健・医療・福祉などの専門書のほか、一般雑誌・小説などが並ぶブラウジングコーナーがあります。



3 本学資料コーナー



4 視聴覚資料コーナー

館内



テーマ展示
学生ブック
ハンティング展示



図書委員会の先生が選んだおすすめの一冊



7 1階風景



新着ワゴン
新着図書をご紹介!



8 シラバスワゴン
(シラバス掲載テキスト)



5 利用者端末



6 移動式書架

図書・雑誌・新聞のバックナンバーが並んでいます

2階には心理学・文学・教育学などの一般教養書が並んでいます。

すべての席にコンセントが配置されているので、パソコンを利用することが出来ます。

四季折々の景色を眺めながら、開放的な学習スペースを是非ご利用ください。



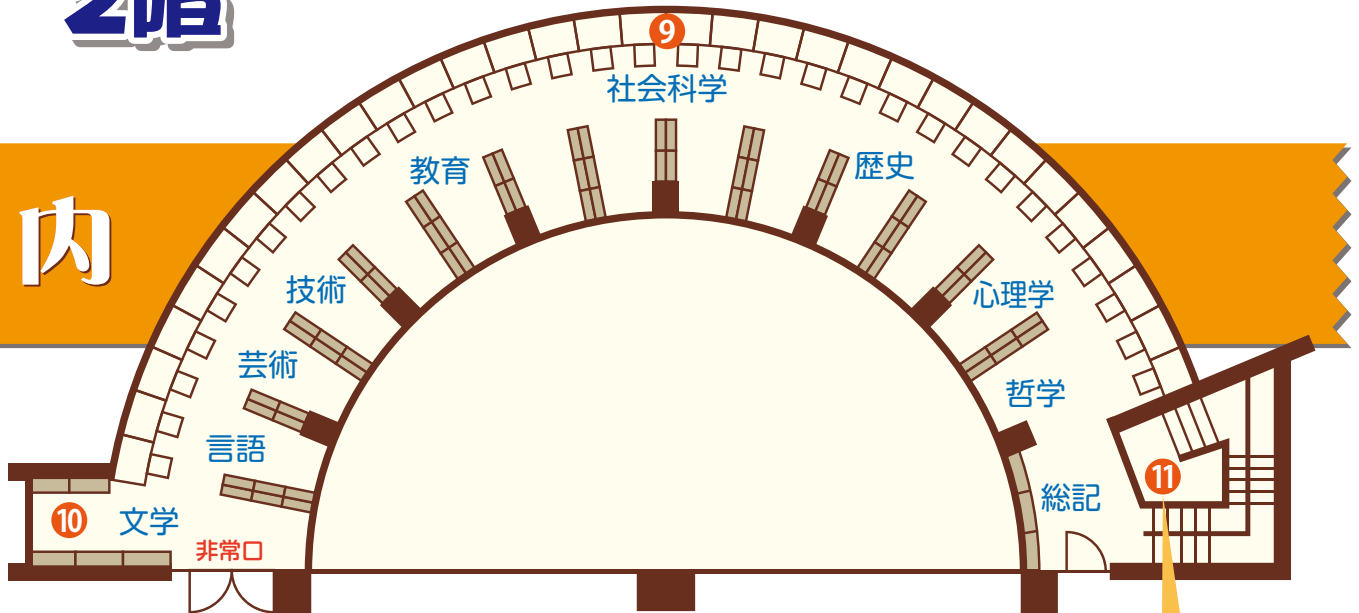
9 2階学習席



学習席からの景色。窓の外には南葉山や金谷山が望めます。

2階

案内



10 2階奥小説コーナー



11 災害看護・地震関係資料コーナー



1階、階段裏にあります。是非ご利用ください。

新任図書委員ご挨拶

看護教育学 教授 舟島なをみ

本年4月から図書委員会に参加させていただいております。学士課程、博士前期・後期課程に在籍する学生、そして教員、地域の皆様にとって重要な意味を持つ図書館をより一層、充実させていくために、委員会構成メンバーの方々にご教示頂きながら活動していきたいと考えております。どうぞよろしくお願い致します。

老年看護学 准教授 小池 潤

4月から老年看護学に着任しました。

皆さまにとって、図書館がより利用しやすくなるように努めたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

退職図書館職員

吉原 貴子

13年間忙しく、職員の入替りが激しい中、業務のスリム化を図るなど苦勞した時期もありましたが、歴代の図書館長や係長のご尽力があり、リポジットリの構築、ホームページリニューアル、メディカルオンラインとCINAHLのフルテキスト化等サービスの拡充を進めることができました。

ありがとうございました。

佐藤 晴夏

平成25年度より5年間お世話になりました。

図書館は1年を通して学生さんの成長を間近に感じる事ができる、とてもやりがいのある楽しい職場でした。

その中で皆さまの力になれていたのなら嬉しく思います。

長い間ありがとうございました。

柳澤 和代

在職中は大変お世話になりました。

図書館でのお仕事は感動・発見・学びの日々でした。

皆さまには感謝の気持ちで一杯です。皆さまのご健康と看護大の更なる発展をお祈りいたします。

田村美和子

半年間ですがお世話になりました、ありがとうございました。

現在は事務局におりますので、これからもどうぞよろしくお願い申し上げます。

新図書館職員

石野 愛美

4月よりお世話になっております。大学図書館で働くのは初めてのことで、学ばねばいけないことが沢山ありますが、みなさまが安心して利用できるよう努めてまいります。

原田 俊幸

昨年の10月より図書館でお世話になっております、『原田』と申します。図書館業務は初めてのため試行錯誤の毎日ですが、今後とも宜しく願い致します。

塩坪 広美

4月より、図書館でお世話になっております。図書館の業務は初めてですが、利用者の皆さまに少しでもお役に立てるよう、笑顔で頑張ります。よろしくお願い致します。



平成30年4月
平成30年6月
寄贈図書

下記の著書をご寄贈いただきました。(受入日順)

敬称略

No.	寄贈者名	書名	出版年	請求記号
1	渡邊 隆	悪性脳リンパ腫の僕が再び教壇に立てた理由	2018	N049.1-悪性脳リンパ腫
2	佐々木郁子	ホーザ ブラジルからのおくりもの 日本でがんと闘ったバルの記録	2017	N049.1-乳癌
3	山本 達男	病原体と感染症 各論編 第2版 Battle & medical application 講義シリーズ	2017	493.8-Y31-2
4	山本 達男	病原体と感染症 総論編 第3版 Battle & medical application 講義シリーズ	2018	493.8-Y31-1